

Minuma Shun Sai 見沼・旬彩

2023年夏号 vol.25



写真提供:見沼未来遺産推進委員会

氷川女體神社
なごしおはら
夏の祭礼「名越大祓い」

「名越の祓いをするは千年の命のぶと言うなり」の和歌もあるとおり、さいたま市の無形文化財。氷川女體神社は埼玉の正倉院と称されていて、社叢は「ふるさとの森」と県から指定。今を昔に緑豊かな散歩コースなので都心から、近隣から、初夏の風を楽しむ参拝者やハイカーが年々増えています。

名越大祓い:7月31日 午後3時より 緑区宮本2-17-1 TEL.048-874-6054

7ページにガイドツアーのお知らせがあります。ご覧ください。

夏の野菜料理

「成す」に繋がるパワーを秘める、
夏野菜のトップ「ナス」。

生で良し、煮て、焼いて、蒸して、新鮮であれば水に晒すあく抜きは要りません。鍋にごま油を回し入れ、加熱したら種を除いた唐辛子を入れ香りと辛みを引き出します。ナス、ピーマンを入れて時々混ぜながら蓋をして中火で4~5分、味噌・昆布だしを適量加えて味を調えます。



▲ナスのシギ焼き

「里山クラブ見沼」の活動のご紹介



▲佐藤理事・事務局長さんと有機水田の前の看板

「自然農法」での農業体験・学習・イベント

「里山クラブ見沼」は、2016年春から「自然農法を楽しむ大人のクラブ」として、さいたま市緑区の「見沼田んぼ」にて、毎週土曜日に会員が集まり、化学肥料を入れない「自然農法栽培」で農作業を行っています。

小川町「霜里農場」で自然農法を学ぶ

2022年からはNPO法人に移行しました。代表・

山内浩一さん。クラブ創設の中心となった8名の方たは、小川町の有機農園「霜里農場」で、日本の有機農業の第一人者として知られた故・金子美登さんの元で学ばれ、2015年に見沼たんぼの東浦和駅から10分の緑区大間木で、「自然農法の農園」を開設しました。

自然農法体験と交流イベント

農園は「大間木公園」を越えて芝川「桜橋」を渡った右手(南)です。年会費は、家族会員で年36,000円(夫婦と子供何人でも可)です。

会員40名。自然農法でのお米づくり、麦栽培、野菜や大豆栽培・みそづくり、果樹各種栽培、様々な交流イベントなど、魅力的なプログラムが揃っています。田2,500m²、畑2,100m²、果樹園1,100m²。無料のお試し体験もあります。

緑区東浦和1-17-7

お申込み・お問い合わせは、info@satoyama.club
代表・山内浩一

特定非営利特別法人 見沼ファーム21の「ありがとう米」

1999年に県の委託を受け始まった体験米づくり活動も、年々委託されるたんぼの数と面積が増え収穫量も増加し、社会貢献の観点から収穫米を活用できないかとの意見が会員から出され、収穫米を提供する団体を公募する「見沼たんぼありがとう米」という活動が2006年からスタートしました。

「ありがとう米」という名称は、稲を育む見沼の土や水など自然への感謝、この活動に協力頂いている皆さんへの感謝、収穫できたことへの感謝の思いを込めつけた名称です。「ありがとう米」は県と連名で公募しており、配布先は当会の選考会議に諮り、県に報告し決定しています。この活動は会員相互の努力・協力で進められ、行政や見沼たんぼ関係者からも高い評価を得て、多方面から関心が寄せられています。



2022年には障がい者福祉団体、児童・高齢者団体、教育・環境保護団体等50団体へ2,253キロ提供し、過去5年でも平均50団体へ平均2,029キロ提供しています。近年はこども食堂やフードパンリー等の活動を通じて困窮世帯にも配布されています。



染谷フクロウの森

「染谷フクロウの森」の保全運動にご理解・お力添えを

要望書が提出されるとともに、市議会でも、「豊かな自然環境を破壊するものとして慎重な対応」を求める意見がございました。

このフクロウの森を守ってという要望や意見を踏まえて、2021年度の都市局は、「伐採工事の中止と生態環境調査の実施」を決めました。

しかし、2022年度に都市局を担当したグループは、前年度の決定を無視して、森の一部であり6年前に整備されたばかりの都市公園の樹木を全面伐採し、「芝生広場」づくりを伐採中止要望を無視して強行しています。

一昨年2021年の秋に、その森の中心部に「お祭りができるような広場がほしい」と、染谷共栄自治会(30戸ほどの住宅地を中心に、染谷自治会から分離した自治会)会長からの、「協定書にも反する場違いな要望」に対応して、森を伐採して「広場」にする3,410万円の予算が、市議会に提出されました。この伐採計画にたいして、「染谷フクロウの森を守って」という声が地域で活動しているグループのメンバーなどから上がり、緊急の3万人署名活動や

この森のもつ豊かな生物の多様性を無視した「単一植生の芝生広場」づくりは、自然環境の破壊そのものです。さいたま市都市局による生物多様性を破壊する行為に、反対する活動が続けられています。(文責・染谷フクロウの森保全計画検討チーム・事務局長 北原)

見沼ファーム21の「生きもの調べ」活動

当団体は県公募の「加田屋田んぼ」で、安全・安心な米づくりの体験の場として2004年から無農薬での米づくりを始めました。そして4年経過した2008年には、他のたんぼで見られないカブトエビやホウネンエビが観察されました。

その後「たんぼには他にどんな生き物がいるだろう」との会員の素朴な疑問や探求心が芽生え、子どもたちがたんぼのオタマジャクシやカエル・バッタを夢中で追いかけている姿を見て、体験活動に参加する親子と一緒にたんぼの生きものや植物を調べようと思い立ち、2009年から「生きもの調べ」がスタートしました。

昨年は虫や魚などの調査を田植え後と出穂後の2回、草花の調査を1回、計3回行いました。たんぼ作業前の朝8~9時に子どもたちは自由に生きものを採取、名前を調べ種類別に分類します。そしてたんぼ作業の後に環境カウンセラーと会員から特徴などの説明を受けます。令和4年に延べ328名、103組が参加し、たんぼに棲む生きもの達を通じて貴重な自然環境やたんぼの多様性などを楽しく学ぶ場となっています。



▲子どもたちの活動写真



▲生きもの調べ冊子には採取された絶滅危惧種も



▲たんぼ作業後の説明会

花と産直野菜の店 (有)染大

昭和51年4月に開設された、「さいたま市思い出の里市営霊園」の正門内的一角にある、(有)染大の直売所をお訪ねしました。

同直売所は同市染谷・大谷地区の農家の方が栽培した季節の野菜、しきみ・桜そして市場や产地から仕入れる一般食品・更に仏花・法事花・お墓参りや墓地の清掃代行などを年中無休で行っています。そのほか市場からの仕入れ品(葉子類・たくあん・梅干・辛みそなどの一般食品・駄菓子コーナー)などがあります。なぜ年中無休で営業するのかをお尋ねすると、墓参は土日・祝祭日が多く、又この地域では正月に氷川神社と同霊園を墓参する家庭が多く見受けられるとのこと。直売所は同霊園をお参りする方や近隣住民の方から大変喜ばれています。

見沼区大谷600 TEL.048-686-9447

営業日:年中無休 営業時間:2月~10月 9:00~17:00 11月~1月 9:00~16:30

◀代表取締役
野崎章永さん

大和田直売所

東武アーバンパークラインの大和田駅から南側へ踏切を渡り、歩いて3分のところにあります。昭和59年から40年間、地元で採れたての安心・安全な季節の新鮮な野菜等を販売しています。開店前から列ができるのは、人気があります。お客様は地元の長いお付き合いの方や駅が近いため新しい方も増えています。取扱い品目は、野菜、お米、果物、花、卵、漬物です。店長・責任者の浅子治久さ



▲店長 浅子治久さん

んを中心に7軒の農家が当番制で協力を直売所を運営しています。

見沼区大和田町1-1-1634

営業時間:13:30~17:30 火曜・木曜・土曜



見沼のお店紹介!

珈琲豆屋

見沼大橋近く、代用水西縁の桜並木に面したコーヒー豆専門店。トントンと外階段を上ると、もうコーヒーの香りが漂ってきます。

店内には30種類以上の世界各地の生豆が揃っていて、注文を受けてから手焙煎して販売しています。コロナ禍でずっとお休みしていた喫茶も土日に限って再開。炒りたて、挽きたて、淹れたての香り高いコーヒーも楽しめます。木を基調とした落ち着いた店内のあちこちにある木彫りの作品は、なんとマスターの手作り。静かに流れる音楽と外でさえずる小鳥の声を聞きながら、大きな窓から見渡す見沼の風景の中でゆったりとしたひと時を過ごせます。

緑区宮本1-14-19 TEL.048-875-8877

営業日:木曜~日曜 10:00~18:00 (喫茶は土日のみ)

ブログ:<http://mameya.asablo.jp/blog>

▲窓辺の眺め (ケーキセット 700円)



▲外観



▲世界各地の生豆が揃う店内



▲マスターの伊藤孝さん

これ、何の花?



夏から秋にかけて収穫を迎える、おいしい果物の花です。写真上はナシの花。ナシはバラ科の植物なので、サクラやアンズ、リンゴ、モモ等と似た可憐な花を咲かせます。下の写真、花とは見えないような地味さですが、これはブドウの花。

写真はいずれも見沼区片柳で4月から5月に撮影しましたが、ナシもブドウも見沼のあちこちで栽培されています。今頃は、小さかった青い実がすくすくとふくらんできています。

*畑(野菜、果樹、植木など)や田んぼ(畔を含む)、雑木林などのほとんどは私有地で、農家の方がそれぞれに管理されている場所です。無断で立ち入らないように気をつけましょう。また、ゴミは思い出と一緒に持ち帰りましょう。

フルーツパーク浦和組合

平成元年(1989年)に苗木を植え始めて、今年で34年。3人の組合員さんでブドウの摘み取りのほか、ナシの直売を行っている果樹園です。安全な果物生産に留意して、あえて「種なし薬品処置」をしない「種あり巨峰」などを直売しています。トイレ、休憩所も完備し、直接、来店すれば宅配での発送も可能です。

また、地場産の野菜やブルーベリーなども販売。直売のブドウはカゴ入りでお土産にも最適です。営業期間:ブドウ狩り・直売／8月上旬～9月中旬。ナシ／8月中旬～9月中旬。取扱品種:ブドウ／巨峰、ヒムロットシードレス、藤稔。ナシ／幸水、豊水、秋の彼岸のころまでです。

緑区間宮766

TEL.080-5027-2289 (開園日のみ通話可能)

JR浦和駅東口よりバス「東川口駅北口」行き乗車「浦和特別支援学校」下車徒歩約3分

開園時間:9:00～16:00頃

営業日:水・土・日曜(8月～9月の祝日は開園、お盆は休園)

入館料・利用料:ブドウ狩り／入園無料 ※直売・お持ち帰りは別途料金



山田ぶどう園

東大宮駅東口から徒歩5分の住宅街にありコンビニに隣接するぶどう園です。園主山田喜一さんが、ご自宅のぶどう園で10品種以上のぶどうを育て収穫し直売されています。お訪ねした5月初夏の炎天下、山田さんはスタッフとともにぶどう棚の下で、芽かき・ツルの誘引等に大粒の汗を流されました。

品種は、巨峰・ブラックビート・安芸クイーン・クインニーナ・シャインマスカット・瀬戸ジャイアンツ・天山の他、最近注目の「富士の輝」通称ブラックサン・シャインマスカットも育成中です。高い糖度と超大粒の果肉で話題となっています。

山田ぶどう園では時期により販売する品種が異なり、例年8月中旬から9月中旬までに園内で直売されています。スーパー店頭と同様の価格ですが、ぶどうは追熟しないため、もぎたての鮮度の良い美味しいものが買えます。販売日には遅い時間になるほど品数が少なくなるので、午前中がおすすめです。



見沼区東大宮5-23-1

TEL.048-683-4636

直売時期:8月下旬～9月中旬

9:00～12:00、13:00～17:00

MINUMA
New Face/ 新規就農者 鈴木農園の園主・鈴木望さん

▲鈴木望さん



▲ネギ畑

培しています小松菜と水稻の生産に携わり、車輪技術・操作の習得(トラクター、ショベルカー、田植え機等)また、ベラン指導者の下、農業を一から学ぶことができました。

作目は家族経営、露地栽培等を考慮し「ネギ」に決め、ネギ生産農家の研修を経て昨年9月にさいたま市認定新規就農者の資格を取得しました。現在、ハウス2棟、トラクター1台、農地9反を確保し、ネギ7反の作付けを行っています。主に農協向けですが、将来販路を拡大しスーパーマーケット、学校給食等にブロッコリー、タマネギ、ジャガイモの販売を行う予定です。

岩槻区大口297

今年も「ひまわり迷路」を楽しんで

(社)さいたま市地域活性化協議会の見沼田んぼにおける「SDGs推進活動」として始まった「ヒマワリ迷路畑」プロジェクト。浦和区三崎地区の公有地(1,500m²)で、昨年から始めました。

今年は、8月の夏休み期間に花が咲くように、昨年より少し遅らせて、6月上旬に種まきをします。地域のボランティアの参加を募り、種まきを行います。

8月に花が咲いたら、迷路になっているひまわり畑の中を歩いて「迷子」になって楽しんでください。事前申込みは不要で無料です。また、近くの農地(2,500m²)で、サツマイモの栽培活動も展開中です。

(社)さいたま市地域活性化協議会
大宮区宮町1-5 銀座ビル6階
TEL.048-700-4854 FAX.048-700-4864
<https://www.city-saitama.jp/>



代表理事 星野邦敏さん▶

ガイド
ツアー 氷川女體神社・名越大祓いツアー

2023年7月31日(月) 先着15名

集合:13:45 東浦和駅前広場(小雨決行)

参加費:300円(バス代別)

「輪ぐり」「大祓え」と呼ばれる行事で、江戸時代より続く名越しの行事です。月遅れの7月31日、罪穢れを人形(ひとがた)に移し、社頭を流れる見沼代用水西縁に流します。その後、境内の鳥居に取付けられたマコモという植物で作った輪を「8の字」にくぐります。罪穢れを人形に移して水に流し去らせることにより、悪疫を防ぎ、秋の農繁期の健康を祈願するものです。昔ながらに神官・氏子・参拝者が同時に一体となって行われる貴重な神事/お祭りです。ご一緒に参加しませんか。

●コース:東浦和駅→朝日坂上バス停→氷川女體神社(名越の大祓え参加)→見沼氷川公園→芝原小バス停→東浦和駅(16時45分解散)

●歩行距離:約2km、歩行時間:約2時間

※ツアーは傷害保険等には加入していません。必要でしたら各自ご加入ください。

●参加申込:黒澤兵夫

メール:kurosoawa@peach.ocn.ne.jp

TEL.080-1038-6712 FAX.048-687-5543

今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域の人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2023年 夏号 vol.25

発行：未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail : minuma@minuma-miraiisan.jp
バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アームズ
発行日：2023年6月5日



この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様からの助成金で印刷・発行しております。